



くにたまの会会報

【第8号】
発行／くにたまの会
鳥根県出雲市大社町杵築東195
出雲大社社務所内
TEL：0853-53-3100

大神神社

奈良県桜井市の三輪山に鎮座する大神神社は、大和国一宮にして旧官幣大社であり、大物主神を主祭神として祀る。記紀の伝えでは、国造りの半ばに少彦名神が去り、嘆く大国主神の元に海を照らし顕現されたのが大物主神であった。この大神は^{おおかみ}大国主神の和魂であり、それを知った^{にぎみたま}大国主神は、国造りを完成させるべく大和の三輪山に自らの御魂をお祀りになった。故に大物主神は、大国主神の国造りを成した神としてひいては酒造・治病・方除等の人間生活全般を守護する神として信仰されている。また、大神の坐す三輪山をご神体としているため本殿は無い。拝殿から三ツ鳥居を通して直接お山を拝するという、日本人の根本にある自然と共にある神を崇敬する心が形となって今に残る。



ご挨拶

くにたまの会総裁
出雲大社宮司

千家尊祐

会員の皆様方には、それぞれの奉務神社での日々のご奉仕の中で、大国主大神様の御神徳の宣揚・啓発にお努めの御事、何より存じ上げます。生きとし生けるものの幸縁を結ばれる「国づくりの大神」として日本全国に広がる大神様に対する信仰の輪は、偏に皆様方のお務めのお蔭と感謝申し上げます。

昨年十一月八日、秋篠宮殿下が皇嗣となられたことを国内外へお示しになる「立皇嗣の礼」が執り行われました。

先ずは、この国を挙げた重儀である御代替に伴う一連の祭事や行事の全てが恙なく齎行され、無事納められましたことに、改めて皆様と共に奉祝の誠を捧げ、皇室の愈々の弥栄をご祈念申し上げる次第でございます。

さて、昨年に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は、今もなお全国各地で猛威を振るっています。日本をはじめ世界ではその危機克服に一所懸命に取り組み、ワクチン接種が進みつつも、未だ予断を許さない状況です。

国内においては東京オリンピックの無観客、また鳥根県においては昨年延期となりました全国植樹祭も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から天皇皇后両陛下がリモート中継での御臨席となる等、諸行事の規模の縮小や中止が昨年より続いております。

会員の皆様方それぞれの奉務神社におかれましても、感染拡大防止のために通年のような祭事・行事のご奉仕が困難となり、

昨年から大変なご苦労をなさっている日々
のことと存じます。

医薬の神様でもいらっしゃる「国づくりの大神」の御神徳をお祈り申し上げながら、幾たびもこうした疫厄の難事を乗り越えて来た先人たちの歴史のように、皆々が心を一つにして蘇ってまいりたいと存じます。

年に一度、会員の皆様方が一同に会しての集いで皆様方にお会いできることを楽しみにしておりましたが、こうした感染症によります拡大防止に鑑み「令和三年度 くにたまの会」開催は誠に残念ではあります。が、昨年に引き続き本年も止む無く中止とさせていただきます。

私たちは「だいきさま」にお仕える者として、本会の活動を通じて誇りある日本の伝統・文化とその精神の継承に努めているところです。現下は誠に困難な世情ではありますが、数々の困難を克服して神事をお治めなさる大神様の「和譲」の精神に神習い、困難にあっても、更なるご神縁の輪を広く結び、斯界の発展に寄与していくことが私たちの使命であります。

今後とも大神様への信仰を通じ、その御神徳の宣揚と啓発に力を合わせ共に精進をと念じ上げますとともに、本会にお心寄せをいただきますようお願いを申し上げます。

末筆になりますが、聖上の安泰長久、皇室並びに我が国の弥栄、会員の皆様方の奉務神社の益々のご隆昌、そして感染症の一日も早い鎮静化をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

役員神社紹介

月山神社 出羽神社 湯殿山神社
でわさんざんじんじゅ
（出羽三山神社）

【鎮座地（社務所所在地）】

山形県鶴岡市羽黒町手向字手向七

【御祭神】

月山神社―月読命

出羽神社―伊弉波神・稻倉魂命

湯殿山神社―大山祇命・大己貴命・少彦名命

【御由緒】

古来、月山、羽黒山、湯殿山を出羽三山と称したが、三山草創の由来を尋ねると、今を去る千四百有余年の昔、第三十二代崇峻天皇の御子皇子皇子が海路日本海より庄内の八乙女浜に上陸になり、三本足の靈鳥の先導で羽黒山に登拝せられ、難行苦行の末に推古元癸丑年（西暦五九三年）に羽黒大神（羽黒権現）の御顕現を感得し、更に皇子は月山の頂上にて月山大神（月山権現）を同十三乙丑年（西暦六〇五年）には湯殿山にて湯殿山大神（湯殿山権現）を感得したと伝えられ、それ故に丑歳を以て三山全体の御縁年とされる。抑々、出羽三山は自然崇拜、山岳信仰の『古神道』から発し、類稀な永い歴史と伝統をもつお山だけに時代によりさまざまな変遷があり、仏教の強い影響を受けて「神仏習合」し、明治の「神仏分離」までは「修験道のお山」として栄えた。



羽黒山大鳥居より月山を望む

その為出羽三山信仰は他に例を見ない『多様にして限りなく深い信仰世界』を今に育み、「東三十三ヶ国総鎮護」として篤く尊崇されており現在は月山の頂上には東北唯一の旧官幣大社月山神社、羽黒山の頂上には旧国幣小社出羽神社、湯殿山には旧国幣小社湯殿山神社がそれぞれ鎮座している。



月山頂上（月山神社本宮）

【三神合祭殿】

月山・湯殿山は高岳峻嶺で且つ冬は雪深く夏季以外は容易に登山参拝ができない。それ故に古より両山の御祭神を羽黒山鎮座の出羽神社に合祀することから、「三神合祭殿」とも称し、四時大中小の祭祀が行われ、現在の社殿は文政元戌寅年（西暦一八一八年）に再建されたもので、通称「出羽三山神社」と呼ばれている。



羽黒山（三神合祭殿）

【羽黒派古修験道】

御開祖蜂子皇子の御修行の道が次第に発展して成立した「羽黒派古修験道」の厳しい修行によって「擬死再生」「生まれかわり」をはたす霊山、霊場としても知られており東三十三カ国はもとより、皇室をはじめ、歴代の武将の篤き崇敬によりその地位は確固たるものになった。又、平成五癸酉年の出羽三山御開山一四〇〇年を期に女性にも「神子修行」と称し山伏行を解禁し今に至る。尚、行



羽黒派古修験道
（国宝羽黒山五重塔前）

【東の奥参り】

太古の昔より現世に至るまで、親から子、子から孫へと「敬神崇祖」の精神を伝えており、西のお伊勢さまに詣でることを「西の伊勢参り」と称するのに対して、東の出羽三山に詣でることを「東の奥参り」と称して、重要な「人生儀礼」の一つとされ、民衆の生活の中に今でもその信仰が息づいている。



湯殿山（紅葉の仙人澤）

[URL] <http://www.dewasanzan.jp>

会員神社紹介

大洗磯前神社

おおあらいいそさきじんじや

【鎮座地】

茨城県東茨城郡大洗町磯浜町

六八九〇

【御祭神】

大己貴命（おこなむちのみこと）

少彦名命（すくなひこなのみこと）

【主な祭典】

太々神楽祭（四月第二日曜日）

例大祭並に八朔祭（八月二十五日）

秋季神事有賀祭（十一月十一日）

【御由緒】

六国史の一つ、文徳天皇実録の記録に斉衡三年（八五六）十二月戊戌（二十九日）常陸国鹿島郡大洗の里に御祭神がご降臨されたと記述があります。夜半、塩を煮る里人が海上を望むと天が輝いていました。明日二個の怪石が海面に現れ、その翌日は二十余の小石が、恰もその石に侍るように現れたのです。

時に、里人の一人が神がかりして人々に、「我はこれ大奈母知・少比古奈命なり。昔この国を造り常世の国に去ったが、東国の人々の難儀を救う為に再びこの地に帰って来た」と仰せられました。当時の記録によると度々地震が発生し、疫病が流行するなど国内が乱れ、人心動揺して

おりました。国造り・医薬の祖神と名高い二柱の大神はこうした混乱を鎮め人々を苦しみから救い、復興への道筋を示す為に降臨されたのです。翌天安元年（八五七）八月七日官社に列せられ、次いで十月十五日には「大洗磯前薬師菩薩名神」の称号を賜りました。

当時国司の上奏から八カ月で此の待遇に預ると云う事は破格の事であり、如何に御神徳が顕著であったかを知る事が出来ます。延喜の制当社は名神大社に列せられ祀田千石を領し祠宇宏壮にして、遠近の信仰を集めて栄えておりましたが、残念な事に永禄中、小田氏治の兵乱に際しその難を蒙り、御社殿以下の諸建造物は悉く焼失し爾来百年余り、一小社にて辛うじて祭祀を続けて来ました。



境内及び周辺図（昭和初期の絵葉書より）

水戸藩二代藩主徳川光圀公は由緒深き名社の荒廃を見るに忍びず元禄三年御造営の工を起し境内整備植林、次いで三代藩主綱條公に至り本殿・拜殿、神門に至るまで建造の工を竣え、茅葺きの御本殿に御遷座大祭を齋行しました。現存する社殿、神門等は当時の建造物で社殿の彫刻と共に徳川初期を偲ぶに足る文化財として貴重なものです。

明治七年九月県社に指定せられ、明治十八年四月国幣中社に列せられました。

平成二十八年には、御鎮座より一一六〇年の節目を迎え、記念事業として本殿・拜殿・随神門の修復及び屋根の葺替え、社務所・参集殿を新たにいたしました。

【御本殿】

一間社流れ造のご本殿は間口並に奥行一間、流線の美しい茅葺屋根に覆われています。東日本大震災での被害を受けましたので、御鎮座一一六〇年記念事業として屋根の葺替えと併せて修復工事を行いました。



葺き替え後の御本殿

太平洋、鹿島灘に面する小高い丘の上に社殿があります。正面階段を下り旅館街の並ぶ県道を渡ればすぐに海がひろがりますが、とりわけ御祭神出現の地を神磯と呼び海中の岩場に神磯の鳥居が立っています。

元旦六時より歳旦祭を執行後、宮司以下神職は神磯に下り初日の出奉拝式を行います。神磯は人気の日の出として、元日はもちろん年間を通して神気をいただくとうと多くの人が訪れます。



神磯の日の出

支部の結成を推し進めよう

平成二十年正月二十七日、千家尊

福・元麿父子の書画を奉納すべく出雲大社に参上した。その折に、千家尊祐宮司さんに大國主大神をお祀りする神社の会を設立してはどうかと進言したところ、そういうお話は何人かの方からも伺っていると言われ、具体的なお名前を列挙された。その中に皇學館大学の同期で親しくしている大神神社の鈴木寛治宮司の名前も有った。そこで、一度この件については小生が鈴木宮司と相談をする旨を伝え、千家宮司さんにご了承をいただき辞去した。

その後、鈴木宮司さんと連絡を取り合って、設立に向けた準備を開始した。とくに会則案の作成、会員神社のリストアップなどについて何回か協議したが、鈴木宮司さんを中心に大神神社の職員の方々が、出雲大社と連携しながら推し進めて下さったことは大変有難かった。

そして、約四年の準備期間を経た平成二十四年十一月七日、出雲大社において「くにたまの会発起人会・

設立総会」が開催されたのである。

爾来、毎年総会も各地区で開催(三年に一回出雲大社)され、会員神社数も二八〇社を超え今日に至っている。ただ、コロナ禍の影響で昨年と今年の総会は中止せざるを得ない状況となり残念に思う。

ところで、本会のみならずあらゆる会合が中止、延期となる社会情勢の今だからこそ、くにたまの会の将来について会員の皆さんに再度考える時間を持っていただくようお願いしたい。というのも、来年は本会設立十年の節目の年を迎える。しかしながら、都道府県の支部結成がほとんど着手されていない。

平成三十年三月、わが兵庫県が最初の支部結成を実現した。しかもその年の七月に開催された東京での総会は、東京都の会員神社の方々がそれぞれに役割を分担するなど、支部的な行動をされていたことが印象に残っており、わが兵庫県で総会が開催される時のお手本にさせていたただこうと思った。さらに、北海道、島



くにたまの会理事
荒井神社名誉宮司

廣瀬 明正

根拠も三十社以上の神社が加盟しており、兵庫に続いてこれら都・道・県三支部の誕生する日はそう遠くないと思う。

会員神社数が地区・県によって差が出てくるのは仕方ない面もあるが、支部を結成するためには少なくとも十社以上の加入を促進せねばならない。また、加盟神社が少数のため県単位での結成が困難な場合も出てくるであろう。そんな時、柔軟な対応が必要になってくる。

たとえば、東京都が支部を結成した場合、一時的でも関東地区の神奈川県・埼玉・千葉・茨城・栃木・群馬・山梨県を「関東支部」として集結する、あるいは東北地区の青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島県を「東北支部」とすることなども一案ではないかと考える。

いずれにしても、地区・県単位の支部の結成をめざしつつ、会員の増強を図ることが本会にとって必要不可欠な課題だと認識し、地道に努力しなければなるまい。そうすること

により、将来各県で総会を開催する際、特定の大きな神社に一任するのではなく、支部として引き受ける形が定着し、その地域の会員神社が協力して運営にあたるという気風が生まれてくると思う。

くにたまの会のような全国的組織が、わずか設立十年で完全な形になるとは毛頭思わない。しかも、会員は神社単位であり、入会が任意である以上、地域・人により温度差もある。しかし、そうだからといって拱手傍観しては本会の発展に繋がらない。会員の皆さんにはこれから十年先のことを見据えて活動していただきたい。

最後に私事で恐縮だが、神勤五十三年の今年三月末日をもって現役の宮司を退任した。いずれ本会の役員も辞任することになるが、今回とくに後輩の皆さんにわが想いを伝えたく筆を執った次第である。

どうか、これからも「くにたまの会」をよろしく願います。

くにたまの会とは

くにたまの会は、`だいこくさま、を奉斎する神社の全国組織で、御神徳の宣揚と斯道の発展、鎮座地域の活性化などを目的に活動を行なってまいります。より大きな御神縁が結ばれますよう、一社でも多くの神社にご加入いただきたく、お願い申し上げます。

くにたまの会 新規入会神社 ※順不同

神社名	宮司名	鎮座地
山邊神社	山崎一夫	島根県
柏原八幡宮	千種正裕	兵庫県
阿羅波比神社	立脇通也	島根県
熊川神社	野口裕教	東京都
蔵主神社	宮川直明	東京都
伊勢社	峰岸正則	東京都
菅原神社	池田豊彦	東京都
朝日神社	綿引敏	東京都
根津神社	内海一紀	東京都

神社名	宮司名	鎮座地
白山神社	山崎公男	東京都
熊野宮	宮崎久嗣	東京都
田端神社	宮澤良和	東京都
白山神社	小松春義	東京都
瀬田玉川神社	高橋邦夫	東京都
穴澤天神社	山本頼信	東京都
杵築神社	伊藤隆	東京都
青海神社	古川洸	新潟県
鴨都波神社	松本邦夫	奈良県

令和3年8月1日現在 会員神社総数：299社

会員増加の動向と

今後の方針

本年度におきましてもコロナ禍でございましたが、東京都を中心に会員拡充を図ったことにより、新たに十八社が新規会員神社としてご入会いただきました。

現在、会員神社の多い県もありませんが、少ない県もあるようです。

「くにたまの会」支部結成についても各県にて進めていらっしゃるかと思えます。現在この様なご時世でございますので会員神社の皆様におかれましては、ご無理のない範囲で地域や各県の垣根を越えて、友人・知人などあらゆるご縁のもと、新たな入会神社を募っていただきたくお願い申し上げます。

くにたまの会事務局



「くにたまの会」会員神社異動報告

●名誉宮司就任

吉田 源彦 (北海道 北海道神宮)
 廣瀬 明正 (兵庫県 荒井神社)
 人見 昇三 (栃木県 温泉神社)

●宮司就任

間島譽史秀 (北海道 北海道神宮)
 廣瀬 元正 (兵庫県 荒井神社)
 矢島 忠秀 (埼玉県 久伊豆神社)
 水野 憲生 (石川県 日吉神社)
 宮本 成敏 (岐阜県 三輪神社)
 小田 芳夫 (広島県 甘南備神社)
 宮本 修成 (香川県 宇夫階神社)
 人見 文治 (栃木県 温泉神社)
 小林 慶直 (新潟県 白山神社)
 古澤 俊司 (島根県 新宮神社)

「くにたまの会」会員神職帰幽

矢島 忠男 (埼玉県 久伊豆神社)
 水野 吉紀 (石川県 日吉神社)
 宮本 仙翁 (岐阜県 三輪神社)
 古澤 宏矩 (島根県 新宮神社)
 宮本 守也 (香川県 宇夫階神社)

帰幽された方々のご逝去を悼み、謹んで追悼の意を表します。

※会員神社の異動報告等について記載漏れがございましたらお詫び申し上げます。
 慶甲のお知らせがございましたら「くにたまの会」事務局までお知らせ願います。
 会員の皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

大切なお知らせ

常日頃より「くにたまの会」の活動に際してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年発生した新型コロナウイルス感染症により、昨年引き続き本年の「くにたまの会」役員会・総会も誠に残念ではありますが中止することとなりました。

本来であれば本年は役員改選の年にあたりますが、理事長並びに副理事長にご協議いただき、現役員にて任期を一年延期することとなりましたので、会員の皆様方へお知らせ致します。

また、令和四年の「くにたまの会」役員会・総会の開催につきましては愛知県三河国において開催させていただく予定となっておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

「くにたまの会」事務局



「くにたまの会」

会報ご寄稿のお願い

皆様よりお寄せいただきました写真や記事・情報をホームページや会報に掲載させていただきます。

就きましては、遷座祭・式年祭・特殊神事・地域の伝統行事・身近な出来事等どんな事でも結構でございますので、ご寄稿を賜りますようお願い申し上げます。

送り先

〒六九九一〇七〇一

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社社務所内

「くにたまの会事務局」まで

電話 〇八五三一五二一三二〇〇

メール johno@izumooyashiro.or.jp

※写真を添えてお寄せ下さい。